

遂に閉院その後



空知医師会
特別養護老人ホーム福寿園

こ ばやし こう みる
小 林 公 民

私の場合の閉院はコロナとは全く関係なく、準備を進めていたのですが、消毒用アルコールが不足している、と聞いて、少し買いためでも思ったのですが、万が一の火事の心配で止めてしまっただけで残念でした。しかし中国発といわれるこのウイルスはあっという間に全世界を席卷する。次々変異し、爆発的な感染力のため、政府は史上初の「緊急事態宣言」を発令。我々に不要不必要な外出自粛、密閉・密集・密接を避ける、人間との距離は2m以上といった新しい生活様式の徹底を求めた。

さらに「今回の新型コロナウイルスの感染力は、今まで普通に見られた季節性インフルエンザ[5類]でなく、感染症法上の分類の(2類)に相当するもの」として認知され、治療されていた(申し訳ありませんが、私もよく分からない)。

それから3年4か月、名実ともに「5類」と命名されたみたいだが、ウイルスの毒力が急に弱くなった訳ではないと思うので、今までに近い対応治療が望ましいか。

私の場合は閉院して3年経ち、コロナ禍の中、医院と跡地の方は、綺麗さっぱり、駐車場に変身させました。さらに個人的にいうと、我が家の1階は老夫婦、2階は娘夫婦と小3の孫がやや不定期に住んでいるのですが、ワクチンはきちんと接種しているとしても、お蔭で目下コロナとは健康上無縁です。

しかし生活上無縁だったかと聞かれると、話は別で、大変でした。

私は昔、高校生に講演依頼された時、「金は貸す身にも、借りる身にもなるな、友を失う(シェークスピア)」、「貸すときは遣ったものと思え」、「保証の印鑑は絶対押さない」等話したのですが、私自身その線は守ってきたつもりでしたが、世話になってきた先輩の頼みだったこと、コロナ前のまだ景気良く、倒産の危機など考えもしなかった。やはり甘かった、もっと冷静に見わたせる眼力が必要だった。

一重に砂川市の発展のため、市民有志の出費による砂川初の本格ホテルが、昭和61年(37年前)誕生しました。砂川駅より歩いて30秒(あまり当てにならない3分でない)。駐車場もそれなりに広く、さらにパークホテルの名前の縁から本店の札幌パークホテルから、大変優秀な洋食と中華のチーフ2名派遣してくれました。二人がいたときの砂川パークホテルは、大評判だったのですが、優秀な人は自立したくなるのが人情で、二人がいる間に、次の世代を育てるのが、役員を務めたのに、ただぼんやりと、一人に任せきりだった、怠慢と愚かさをかみしめています。

なお、二人のチーフは道内の都市で大成功をおさ

めています。

コロナ禍のど真ん中、斜陽が進む当ホテルにあって、従業員一同の頑張りは目を見張るものがありました。経費軽減のため、時間外労働を無料でしたり、「明らかに違法で後で修正したとしても」無能な役員の一員として反省するのみです。

砂川として何としてでも残したい交渉にホテルの社長と砂川商工会議所の会頭を砂川の代表として長い交渉の末、砂川として最良の条件で身売り(いささか情けない響きですが)できました。

とはいえ、3年超えたコロナ禍の中、みんなアップ・アップで、倒産寸前の会社が多い中、あっさり救助の手を差し伸ばしていただいた方の人物像は、砂川生まれで、美貌の優しい女傑で砂川に広い農園持ち評判の製品も全部自家製品、評判呼んで、米国にも支店持ちコロナ禍の中確実に売り上げを伸ばしているとのこと。驚くほかない。現在東京に本店を持ち、一層の飛躍を目指していると思われる。優しい女傑のさらによい所は、故郷砂川を第一に考えている。久しぶりの花火大会では一社で大花火を。青少年たちには、スポーツジム作り、野球のチーム結成など、砂川パークホテルを倒産より救ってくれたのも、37年前砂川のため、砂川を愛した有志一同と同じ心だったと信じます。まあ実質倒産ですから、株主全く無害というわけではありません。それでも役員一同力を合わせての株券放棄を説いて回り大部分の株主は承諾していただきました。大感謝でした。

私の場合は本来の株券と、途中で辞めた人の株券多少やすく、閉院記念の寄附金と合わせて、ちょっと深いかすり傷位ですが、これが本当の倒産なら、規則上銀行の借金は社長と会長で折半となるらしいので、それを免れただけでも、とても恩人には足を向けて寝られない心境です。今はお蔭さまで、ホテルとはすっかり縁がきれて、お客様として、今までより頻回に家族とレストランに通っています。

私は、昭和39年11月30日「29歳11か月」砂川市立病院に一人医長「産婦人科」として赴任、勤務6年7か月間、昭和46年8月1日「36歳7か月」小林産婦人科医院開業。開業期間48年、「令和元年12月31日」丁度85歳で閉院。運良く第二次ベビーブームだったので忙しく、途中で入院止め。外来診療のみに、30年間の分娩数10,322名、手術数1,191名でした。

分娩数が多くなりますとほんの一部とはいえ心が痛む障害の残る新生児もおりまして、閉院後は少しでもこの子たちの役に立つ仕事に関わりたと思っていたのですが、方向が少し変わりまして、社会福祉法人(くるみ会){精神障害者支援}の、理事長として平成16年よりかれこれ20年に、組織のハード面は念願の新施設の完成で一応の完成を見ましたが、これより組織の中身、ソフト面の充実が問われます。今後、新しい理事長のもと、みんなと力を合わせ、仲よく、明るく、楽しく、元気に知恵をだしあって、乗り越えていってください。見守っていますよ。